

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14072

建築物名称	公益財団法人日本アイソープ協会川崎技術開発センター
建築主	公益財団法人日本アイソープ協会 会長 有馬 朗人
建築物の所在地	川崎市川崎区殿町三丁目102番9、102番12
設計者氏名、建築士事務所名	国府田 道夫 株式会社三菱地所設計建築設計四部 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,966.41m <sup>2</sup>
用途	研究所
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
工事完了年月	平成29年2月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

# CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE川崎2011年版改訂版Ver.2 (BPIBE対応) 使用評価ソフト: CASBEE川崎2011 6-3.0 (BPIBE対応) CASBEE川崎\_2011060302.2.0

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	公益社団法人日本アイトーブ協会川崎技術開発センター	階数	地上3F
建設地	神奈川県川崎市殿町三丁目102番9,102番12	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし、第22条1項区域	平均居住人員	50人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,400時間/年
建物用途	事務所、工場(居住域なし)	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年2月 竣工	評価の実施日	2015年1月8日
敷地面積	9,947 m <sup>2</sup>	作成者	三菱地所設計
建築面積	2,067 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,966 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆★★★★☆

標準計算

① 参照値	100%
② 建築物の取組み	101%
③ 上記+②以外の	101%
④ 上記+	101%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

音環境	2.6
温熱環境	3.1
光・視環境	2.6
空気質環境	3.4

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

機能性	2.9
耐用性・信頼性	4.0
対応性・更新性	3.8

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ・景観	3.0
地域性・アメニティ	3.0

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

建物の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	2.2
効率的運用	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

水資源保護	3.4
非再生材料の使用削減	3.4
汚染物質回避	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	2.9
地域環境への配慮	3.5
周辺環境への配慮	3.1

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	緑化指針における緑化率を15.6%確保している 景観計画に則した色彩としている	2.3/4.3	2.6
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	空地率 約75%確保	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.9</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	2F事務室以外には開口部は設置されない為、温熱環境を向上させている。	0.4/0.7	3.0
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備			
3.2 3.2.2 屋光制御	バルコニーを設置		
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	緑化指針における緑化率を15.6%確保している	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	2F事務室以外には開口部は設置されない為、温熱環境を向上させている	2.9/5.0	2.9
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	LGSを使用しているため、躯体と仕上げの分別が容易。	3.1/4.6	3.3
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	空地率 約75%確保	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.5</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数		0.4/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	内装仕上の仕様は、RC素地仕上げとなる範囲が多い	2.7/3.9	3.4
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.3/0.4	3.6
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	緑化指針における緑化率を15.6%確保している 燃焼機器を使用しない	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	2F事務室以外には開口部は設置されない為、温熱環境を向上させている	2.9/5.0	2.9
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	空地率 約75%確保	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	4.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	2F事務室以外には開口部は設置されない為、温熱環境を向上させている	2.9/5.0	2.9
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				14072					
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
					評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											3.0
Q1 室内環境											3.0
1 音環境											2.6
1.1 騒音											
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0			
2 設備騒音対策						-	-	-			
1.2 遮音											
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0			
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	3.0			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	3.0			
1.3 吸音						1.0	0.20	3.0			
2 温熱環境											3.1
2.1 室温制御											
1 室温						3.0	0.38	3.0			
2 負荷変動・追従制御性						-	-	-			
3 外皮性能				W		3.0	0.25	3.0			
4 ゾーン別制御性						4.0	0.38	-			
5 温度・湿度制御						-	-	-			
6 個別制御						-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮						-	-	-			
8 監視システム						-	-	-			
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0			
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0			
3 光・視環境											2.6
3.1 屋光利用											
1 屋光率						1.0	0.60	3.0			
2 方位別開口						-	-	-			
3 屋光利用設備				W		3.0	0.40	3.0			
3.2 グレア対策											
1 照明器具のグレア						-	-	-			
2 屋光制御				W		3.0	1.00	3.0			
3 映り込み対策						-	-	-			
3.3 照度						3.0	0.15	3.0			
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0			
4 空気質環境											3.4
4.1 発生源対策											
1 化学汚染物質						4.0	0.50	-			
2 アスベスト対策						4.0	1.00	3.0			
3 ダニ・カビ等						-	-	-			
4 レジオネラ対策						-	-	-			
4.2 換気											
1 換気量						2.6	0.30	-			
2 自然換気性能						4.0	0.33	3.0			
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0			
4 給気計画						1.0	0.33	3.0			
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視						3.0	0.20	-			
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-			

Q2 サービス性能										
				2.9	0.40	-	-			3.5
<b>1 機能性</b>										
1.1 機能性・使いやすさ				2.3	0.40	-	-			2.9
1 広さ・収納性				1.0	0.33	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-			
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-			
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30	-	-			
1 広さ感・景観				3.0	0.33	3.0	-			
2 リフレッシュスペース				1.0	0.33	-	-			
3 内装計画				4.0	0.33	-	-			
1.3 維持管理				4.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計				4.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-			
3 衛生管理業務				-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性				4.0	0.31	-	-			4.0
2.1 耐震・免震				4.6	0.48	-	-			
1 耐震性				5.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能				3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数				4.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				5.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				4.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-			
2.4 信頼性				3.4	0.19	-	-			
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-			
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-			
3 電気設備				4.0	0.20	-	-			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-			
5 通信・情報設備				4.0	0.20	-	-			
3 対応性・更新性				3.8	0.29	-	-			3.8
3.1 空間のゆとり				3.6	0.31	-	-			
1 階高のゆとり				4.0	0.60	-	-			
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40	3.0	-			
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.0	-			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38	-	-			
1 空調配管の更新性				3.0	0.17	-	-			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17	-	-			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11	-	-			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11	-	-			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22	-	-			
6 バックアップスペース				3.0	0.22	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)					0.37	-	-			2.7
1 生物環境の保全と創出				G	W	H				2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G						3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上										3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H				3.0

LR 建築物の環境負荷低減性									3.1
LR1 エネルギー									2.8
1 建物の熱負荷抑制				W	H			2F事務室以外には開口部は設置されない為、温熱環境を向上させている	5.0
2 自然エネルギー利用									3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用				W	H				3.0
2.2 自然エネルギーの変換利用				W	H				3.0
3 設備システムの高効率化				W	H				2.2
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)									2.2
集合住宅の評価									5.0
4 効率的運用									3.0
4.1 モニタリング				W	H				3.0
4.2 運用管理体制				W	H				3.0
LR2 資源・マテリアル									3.3
1 水資源保護				W	R				3.4
1.1 節水								省水型機器を採用している	4.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0
1 雨水利用システム導入の有無									3.0
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0
2 非再生性資源の使用量削減									3.4
2.1 材料使用量の削減				W	R				3.0
2.2 既存建築躯体等の継続使用				W	R				3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				W	R				3.0
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				W	R				3.0
2.5 持続可能な森林から産出された木材				W	R				2.0
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				W	R			躯体と仕上げの分別が容易になるよう設計し、かつOAフロアを採用している	5.0
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用									3.0
3.2 フロン・ハロンの回避									3.0
1 消火剤				W					-
2 発泡剤(断熱材等)				W					3.0
3 冷媒				W					3.0
LR3 敷地外環境									3.2
1 地球温暖化への配慮				W					2.9
2 地域環境への配慮									3.5
2.1 大気汚染防止								燃焼機器は設置しない	5.0
2.2 温熱環境悪化の改善				G	W	H			3.0
2.3 地域インフラへの負荷抑制									3.2
1 雨水排水負荷低減					R				3.0
2 汚水処理負荷抑制					R				3.0
3 交通負荷抑制					R			適正な駐車施設・出庫誘導灯の設置を行っている	4.0
4 廃棄物処理負荷抑制					R				3.0
3 周辺環境への配慮									3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0
1 騒音									3.0
2 振動									-
3 悪臭									-
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制									3.0
1 風害の抑制									3.0
2 砂塵の抑制									1.0
3 日照障害の抑制									3.0
3.3 光害の抑制									3.7
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策								周辺環境に適正な照明計画を行っている	4.0
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0